

川崎商工会議所 地域経済動向調査レポート

○商工会議所 LOBO 調査（早期景気観測調査）と中小企業基盤整備機構 中小企業景況調査より、川崎市内の事業者データだけを抽出し、川崎市内地域経済動向として掲載しています。

○また、川崎信用金庫の中小企業動向調査より、景況感の概況について抜粋し掲載しています。

◆商工会議所 LOBO 調査とは

商工会議所のネットワークのもと、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景気感」を毎月調査することにより、企業を取り巻く経営環境や直面する課題等の現状を示すデータとして、経済対策に関する政策提言・要望活動などに活用することを目的としています。

※本調査レポートでは、川崎市内の事業者データのみ抽出しています。

◆中小企業景況調査とは

中小企業を対象に、業況判断・売上高・経常利益等の DI 値※を、四半期毎に産業別・地域別等に算出する景気動向調査です。経営者へのヒアリングをベースに算出しています。約 80%を小規模企業が占める日本の中小企業構造の実態を踏まえた唯一の調査です。

※本調査レポートでは、川崎市内の事業者データのみ抽出しています。

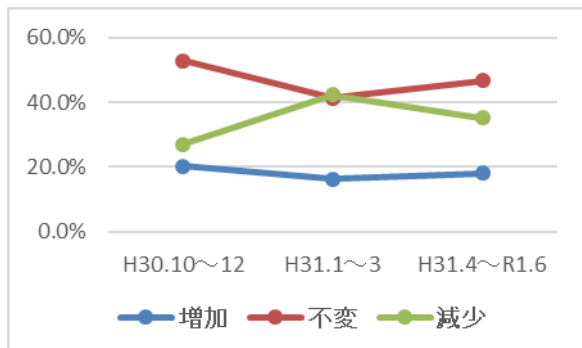
※DI・・・ディフュージョン・インデックス。前年同期比または前期比で、「好転」と回答した企業比率から「悪化」と回答した企業比率を引いた数値。

令和元年 8 月

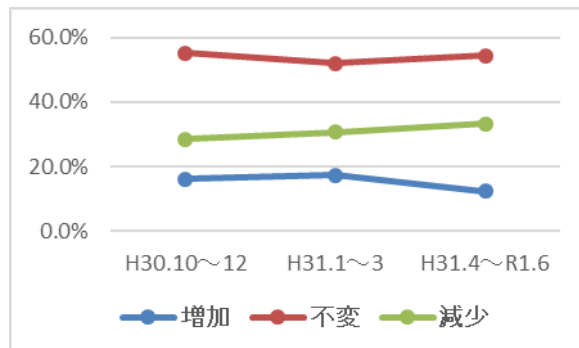
▽川崎市地域経済動向

・期間：平成30年10月～12月期（Ⅲ期）・平成31年1月～3月期（Ⅳ期）・
平成31年4月～令和元年6月期（Ⅰ期）【全業種】

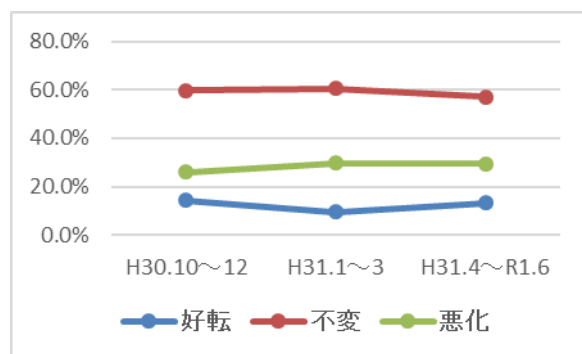
●売上高（前年同期比）



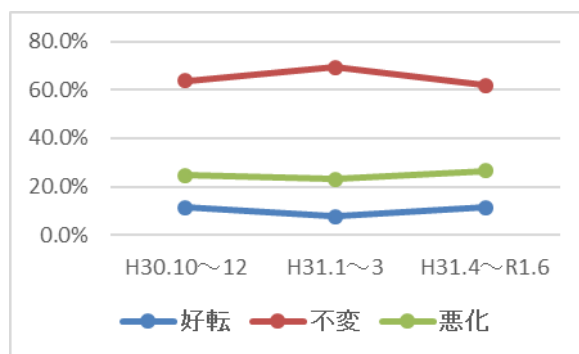
●売上高（向こう3ヶ月の先行き見通し）



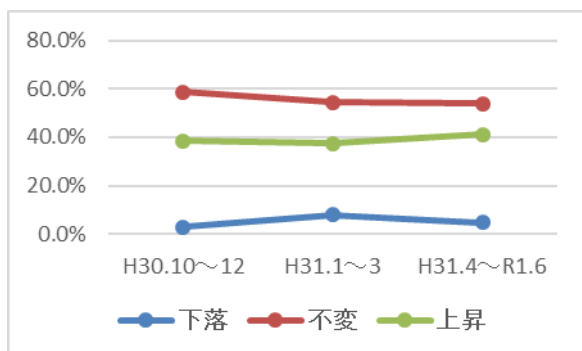
●採算（前年同期比）



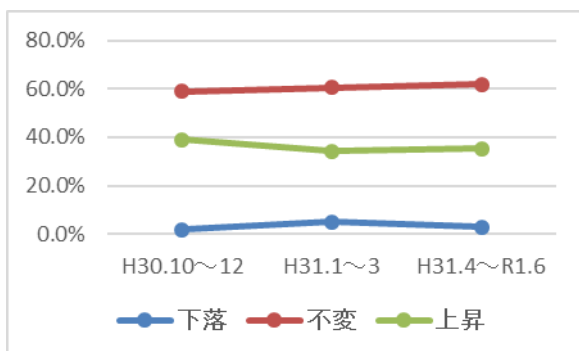
●採算（向こう3ヶ月の先行き見通し）



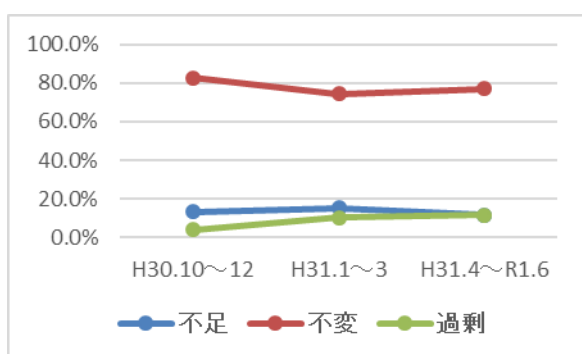
●仕入単価（前年同期比）



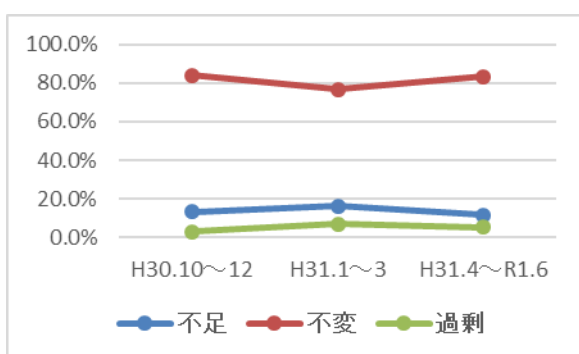
●仕入単価（向こう3ヶ月の先行き見通し）



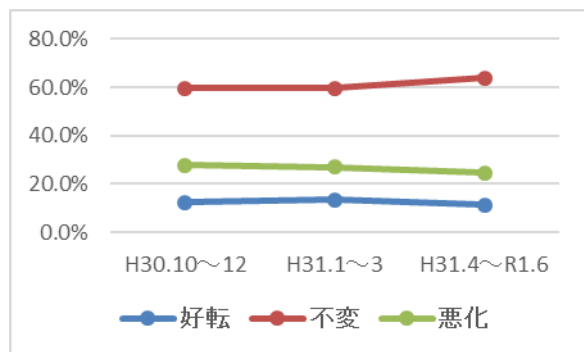
●従業員（前年同期比）



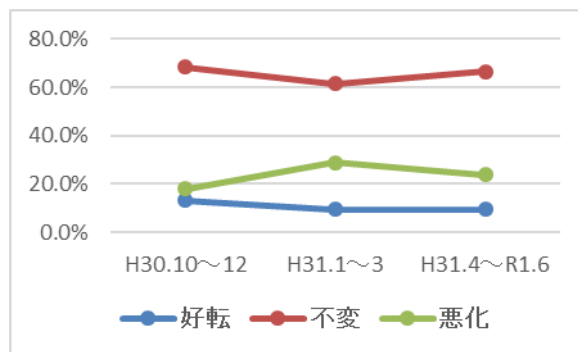
●従業員（向こう3ヶ月の先行き見通し）



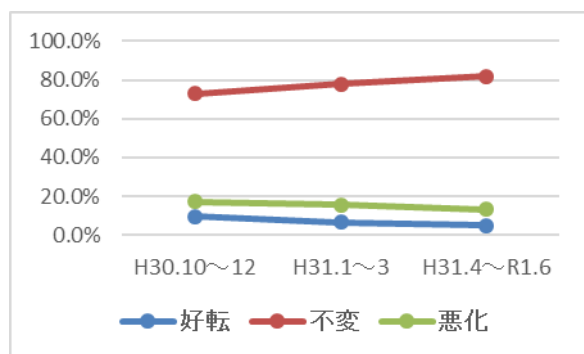
●業況（前年同期比）



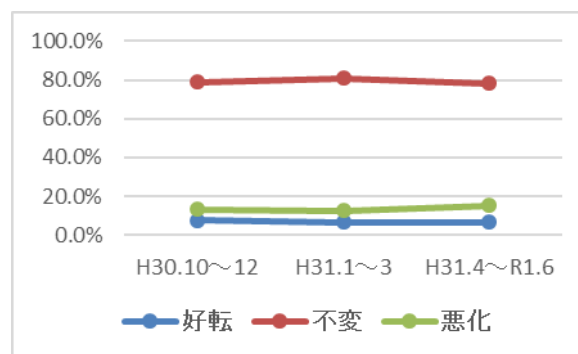
●業況（向こう3ヶ月の先行き見通し）



●資金繰り（前年同期比）



●資金繰り（向こう3ヶ月の先行き見通し）



▽まとめ

今期売上は微増で見通しは微減。採算面はやや好転するも見通しは二極化。仕入単価は上昇傾向にあり、人手は過剰ぎみに推移。全体的に業況は横ばいに推移し、資金繰りも悪化が予想される。

▽全国の状況との比較

【中小企業基盤整備機構第156回中小企業景況調査<2019年4-6月期>結果より】

「中小企業の業況は、一部業種に一服感が見られるものの、基調としては、緩やかに改善している。」

- ・ 業況判断DIは2期連続低下（川崎市内は2期連続上昇）
- ・ 資金繰りDIは、3期ぶり低下（川崎市内は2期ぶり上昇）
- ・ 原材料商品仕入DI「上昇」－「低下」は、2期ぶりに上昇（川崎市内も同様）
- ・ 従業員数過不足DI「過剰」－「不足」は、2期連続不足感が強まった（川崎市内は2期連続不足感弱まる）

【商工会議所LOBO調査（早期景気観測調査）2019年6月調査結果より】

<https://cci-lobo.jcci.or.jp/wp-content/uploads/2019/06/LOB0201906.pdf>

「業況DIは、足踏み状況。先行きは、不透明感増す中、慎重な見方が根強い」

- ・ 業況判断DIは低下（川崎市内は上昇）
- ・ 売上DIは悪化（川崎市内は改善）
- ・ 採算DIは悪化（川崎市内は改善）

【参考】◎川崎信用金庫中小企業動向調査による、平成30年10月～令和元年6月の景況感

▽【平成30年10～12月期】徐々に改善を示す

概況

今期（平成30年10～12月期）の川崎市内中小企業の景況感を総合的に示す業況D I（業況判断指数）は、1.4と、前期比6.3ポイント増を示した。市内業況D Iは、平成29年4～6月期から5期連続の横ばいを経て、前期（平成30年7～9月期）に6期ぶりの後退を示したが、今期徐々に改善を示した。また、売上額D Iも前期比4.9ポイント増の△0.2と改善を示した。収益D Iは前期比1.6ポイント増の△9.3と横ばいを示した。市内業況の改善には、製造業の業況D Iが22.6ポイント増、前期好調だった運輸業、及び不動産業を除いた他業種の改善が影響しているとみられる。一方で次期（平成31年1～3月期）業況D Iの見通しは、△3.1と前期比4.5ポイント減の後退を予想している。業種をみると、小売業（9.1ポイント減）、製造業（8.4ポイント減）、サービス業（8.1ポイント減）となっている。最近の事業経営上の問題点における上位2項目は6期連続で、「人手不足」、「売上げの停滞・減少」となっており、また重点経営施策も変わらず「人材を確保する」「経費を節減する」が上位に目立つことから、依然として問題は解消されず、次期の後退予想につながっていると予想される。

▽【平成31年1～3月期】今期実績・次期見通しともに後退

概況

今期（2019年1～3月期）の川崎市内中小企業の景況感を総合的に示す業況D I（業況判断指数）は前期比5.5ポイント減の△4.1と後退を示した。前期（2018年10～12月期）は好転を示したが、2018年7～9月期以来の後退となった。売上額D Iは前期比5.7ポイント減の△5.9と後退を示した。収益D Iは前期比1.1ポイント減と横ばいを示したが、△10.4と低水準であった。次期（2019年4～6月期）業況D Iの見通しは、△7.9と前期比3.8ポイント減の後退を予想している。業況D Iの今期実績、次期見通しは、ともに後退となった。2017年7～9月期以降、最近の事業経営上の問題点における上位2項目は「人手不足」、「売上げの停滞・減少」となっている。同様に、重点経営施策における上位2項目は「人材を確保する」、「経費を節減する」となっている。建設業については、業況D I、売上額D I、収益D Iにおいて全業種の中で最上位となっており、好調さが目立った。

▽【平成31年4～6月期】2期連続で後退

概況

今期（2019年4～6月期）の川崎市内中小企業の景況感を総合的に示す業況D I（業況判断指数）は前期比5.8ポイント減の△9.9と後退を示し、前期（2019年1～3月）に続いて後退となった。売上額D Iは前期比0.1ポイント減の△6.0、収益D Iは前期比2.6ポイント減の△13.0と横ばいを示した。売上額D I、収益D Iともにマイナス圏での横ばいとなった。次期（2019年7～9月期）業況D Iの見通しは、前期比1.8ポイント減の△11.7と横ばいを予想している。売上額D Iは前期比6.4ポイント減の△12.4、収益D Iは前期比3.3ポイント減の△16.3といずれも後退を予想している。2017年7～9月期以降、最近の事業経営上の問題点における上位2項目は「人手不足」、「売上げの停滞・減少」となっている。同様に、重点経営施策における上位2項目は「人材を確保する」、「経費を節減する」となっている。製造業については、業況D I、売上額D I、収益D Iにおいて全業種の中で最下位となり、厳しい結果となった。

以上